



安心とつるおの「下町」の「手」をめぐって

防災 まちづくり瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

1993.9.1



壁一枚だけが残された建物（奥尻島青苗地区）



ホテル洋々荘を飲み込んだ土砂崩れ（奥尻島奥尻地区）



津波に打ち上げられた船が消防車を潰し、住宅にぶつかって止まっている（奥尻島青苗地区）

北海道でまた！「北海道南西沖地震」



1月に起きた「釧路沖地震」、2月に起きた「能登沖地震」の恐怖も覚めやらぬ7月12日、今度は北海道南西沖でマグニチュード7.8の大地震が起きました。今度の地震では、震源地のすぐ真上近くに位置する奥尻島を中心に、土砂崩れ、大津波、市街地火災に襲われ、200名以上の死者・行方不明者を出しました。地震後5分も経たないうちに大津波に襲われた沿岸の集落は、一瞬にして瓦礫の山と化し、さらに奥尻島青苗地区では火災の発生によって残った家までも焼失し、市街の大半を失いました。地震発生後、すぐに高台に避難して難を逃れた人々も、家を失ったばかりか、水や食料の不足に悩まされました。

この瓦版の発行日9月1日は70年前に関東大震災が起きた日。関東大震災での教訓を後世に伝えていこうと、9月1日は「防災の日」になっています。寺言問地区でも大地震による火災の発生が心配されていますが、津波の心配もないとは言えません。「防災の日」を機に、いつ来るか分からない大地震に対して、更なる備えをしておく必要があります。

高田製薬跡地・ただいま検討中その参

現在、一言会最大の懸案となっている高田製薬跡地の利用策。これまで広場整備を中心に検討してきましたが、「今後の防災まちづくりのために、ちょっとした会議ができるような建物が欲しい」という意見が多くありました。区でもこの点について検討し「広場に付随する防災施設であれば止むを得ない」との見解を示したことから、今後、小さな防災施設を設置する方針で検討を進めることになりました。

前号の瓦版で紹介したように、現地視察や勉強会を行って利用策のイメージづくりをしてみました。これに引き続いて3月17日の担当理事会でアイディア・ワークショップを開き、それぞれ担当理事のイメージを出し合い

方針へ！

そこで、「建物設置の検討にあたっては、区の意見を聞く必要があるだろう」ということになり、改めて区に意見を聞いたところ、「広場に付随する小さな防災施設ならば、建設可能だろう」との回答が返ってきました。

